

涙と感動のH中

校長退職最後の日のことを綴ってみたい。年度末3月31日午後11時過ぎ、自宅を出発しH中に着いたのは深夜だった。校外を一巡し「異状なし、ありがとうございます。」としたためポストに投函した。車の助手席に座っていた夫が歌を詠んだという。『真夜中のノ桜（はな）待つ雨に誘われてノ妻学びやに別れを告げむ』面映ゆかったが、一緒に投函した。

日々感動の二年間だった。私の理想の学校は「価値ある教育活動を創り上げ、その感動を生徒・職員・保護者・地域の方々と共有すること」である。そのためには『十の山』（学習・表現・部活動の山）を設定して、文武に活躍する学校・歌声の響く学校を目指した。

○月△日は私の誕生日。いつものように各学級の授業を見て回った。最後に3階の音楽室に入ると「校長先生タイムリーでした。」と3年生が朗々とした声で「ハッピーバースデー」を歌ってくれた。続いて「自由への讃歌」の心に響く歌声をプレゼントしてくれたのである。ところが、これで終わりではなかった。掃除が終わって今度は呼ばれて音楽室に行くと、そこには全校生徒がいた。そして再び「ハッピーバースデー」と「大地讃頌」の歌声が校内いっぱいに轟いた。

【生徒の一言感想】とっておきのサプライズは、校長先生にとって感動的なものになった。何か校長先生がうるうるで、こっちもうるうるになりそうだった。歌の力はすごいということを実感した。今日はめっちゃいい日だった。泣きそっ。感謝の気持ちをしっかりと伝えられた。校長先生をしっかりと祝うことができた。・・・この子たちはまぎれもなく思春期の中学生である。このことは、明るく楽しい学級づくりや、確かな授業実践に支えられているからこそその為せる業であり、教師冥利に尽きる。

その後先生方も祝ってくれたが、この職員同士の連帯感・一体感が、今のH中生を健全に育てていることを身にしみて感じた。そして『感謝状』なるものを頂く。

—— 「幸せの絶頂の時には一人だけのものとせず、周囲と共に喜び合い、みんなの幸せを常に考えている心やさしい生き方を物語る・・・学力向上に関しては決して妥協しない信念を持ち、理論と実践を結び付け、必ず結果を出す・・・職員みんなが汗してたとえ疲れても最後まで共に山登りをし、登頂で美しい景色を眺めながら達成感や成就感を共有できた。・・・H中の基本授業パターンは宝物、体育祭での校歌熱唱と一糸乱れぬ入場行進、歌声の響く学校、歌声と言霊による感動のラストステージ卒業式、全てが校長先生の発案。保護者も地域も感動の渦に巻き込むバイタリティーに、さらに感動。学校報の文章は言葉の応援団・・・校長先生のために奮闘努力することは、H中生のためにしていることであり、何よりも自分自身の成長になっていることを職員全員が十分に理解し感謝している・・・だから『十の山』を懸命に登るのです。（代表して教頭先生作）

第十の山「卒業式」で参会者から手紙を頂く。「卒業式は感動の連続でした。整然と座っている1・2年生の立派さ、3年生の歩く姿の清々しさ、そしてあの合唱、心をゆさぶる呼びかけ・・・先生は幸せですね。『校長先生と一緒に時間を過ごせてうれしかった』と言ってもらったんですから。」山越えの頂上はこの上なく美しく、見事な眺望絶佳であった。生徒や職員はもちろん、保護者や地域のみなさんとの強い絆、信頼関係こそが全ての原点である。全うした教職人生に満腔の感謝！